

会 議 録

会議の名称	令和８年度第２回 茨木市男女共同参画推進審議会
開催日時	令和８年９月１８日（水）午後２時００分～午後３時５０分
開催場所	市役所合同庁舎６階 会議室
議 長	長町 理恵子 会長
出 席 者	長町会長、山中副会長、畑委員、樫本委員、木曾委員、田井委員、高橋委員、道満委員、中野委員、橋本委員、藤里委員 【１１人】
欠 席 者	梅田委員【１人】
事務局職員	向田共創文化部長、松山共創文化部次長兼人権・男女共生課長、山下男女共生係長、奥田ローズWAM所長代理、利久人権・男女共生課主査
開催形態	公開（傍聴人 ４人）
議題（案件）	(1) 「令和８年度市民意識調査表案」について (2) 「男女共同参画計画策定に係るヒアリング調査」について (3) その他
配布資料	・会議次第 ・（資料１）第１回審議会からの変更箇所 ・（資料２）令和８年度市民意識調査表案 ・（資料３）令和８年度市民意識調査表案（大学生） ・（資料４）令和８年度市民意識調査表案（中学生） ・（資料５）令和８年度市民意識調査表案（小学生） ・（資料６）令和８年度市民意識調査表案（事業所） ・（資料７）ヒアリング調査概要

議 事 の 経 過	
発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	「令和 8 年度第 2 回茨木市男女共同参画推進審議会」を開催する。
事務局	<会議の成立について説明> 本日の出席委員は全 12 人中の 11 人で、欠席委員は 1 人。半数以上の出席があるので、茨木市男女共同参画推進審議会規則第 6 条第 2 項の規定により、会議は成立している。 案件（１）「令和 8 年度市民意識調査表案」について
長町会長	事務局からの説明を求める。
事務局	【事務局説明】
長町会長	ご意見等については、はじめに一般・大学生、次に中学生・小学生、最後に事業所の順に意見を取りまとめる。複数の調査票にまたがる設問については適宜発言願いたい。まず一般・大学生の調査票について意見を求める。
高橋委員	自分で回答してみて気づいた点だが、一般・大学生は「市民意識調査」、中学生・小学生・事業所は「アンケート調査」と名称に差がある。意図的なものか。意識調査とあるのに途中から実態調査的な項目が増え、筆が止まる感じがあった。市としての方針の記載が小さく、守られている感が薄い。ため、性的指向などの回答を控えてしまわないか気になった。
事務局	一般・大学生は意識調査、中学生・小学生はアンケートという形にしているが、特に違いを意図したものではない。
高橋委員	意識調査の範囲を超える内容を聞かれている気がするので、アンケートと言われた方が書きやすいと思う。
事務局	調査票のタイトルをどのようにするか検討する。
木曾委員	対象は市内在住のみか。在勤・在学はどうか。
事務局	市民意識調査は市内在住者が対象である。大学生用は市内の大学で配布するので、在学生が対象である。

議 事 の 経 過	
発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
木曾委員	市内に住んでいない大学生が回答しない可能性があるので、在学を含む旨をどこかに記載してほしい。また、資料3の p.8にある「これらの設問には回答せずに次の設問まで進んでください」の意味が分かりにくかった。チェックをつけずに次に進んでほしいということか。
事務局	設問を読んでつらくなったり不安になったりする方は飛ばしてもよいという趣旨である。ただ、基本的には回答をお願いしたい。
木曾委員	「回答せず」ではなく、必須ではないので回答しなくても大丈夫、というニュアンスにした方がよい。「次の設問」ではなく「次に進んでください」程度でよいのではないか。その他は異論なし。
藤里委員	一般は市内在住、大学生は市内の大学が対象となると、18歳以上で市内在住の大学生・大学院生など重なる層が出る。その処理はどうするのか。
事務局	対象として重なる可能性はあるが、市民意識調査は18歳以上の市民から2,000人を抽出するので、重複する可能性は低いと考える。
藤里委員	学生として答えるのか、一般として答えるのか。その処理はどうなるのか。回答はどちらを優先したほうが良いか。
長町会長	重なった場合にどちらを優先するかを確認し、一言入れておけばよいのではないか。市の意向もあると思うが、無作為抽出の方が相当少ないので、一般調査を優先した方がよい気がする。
藤里委員	一般調査の方に書くと、ほとんどの人が該当せず混乱するかもしれない。大学生調査の方に「一般で回答している方は回答不要」と書いた方がよいのではないか。
中野委員	両方に回答してはいけないのか。
事務局	一般の方を優先する方がよいと思う。両方に答えても、統計上は別々に処理されるので支障はないと思う。課題を持っている人が大学生調査から漏れるのももったいない。一般は2,000人の無作為抽出で回答率は3割程度と考えられ、その中の20代はかなり貴重な票になる。答えるなら一般の方に答えてほしいが、両方に答えたからといって大学生調査の結果が狂うことはないと思う。

議 事 の 経 過	
発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
長町会長	「お手数ですが回答いただけると幸いです」などでもよいかもしれない。検討のうえ、どこかに一言入れておくということでもよいのではないか。
山中副会長	2つの調査で重なっている設問が多くないのであれば、対象者が重なっても質問が違えば問題ないのではないか。
長町会長	負担にならないければ、一人が2カウントになることを良しとするかというところである。 大学は個人が特定できない形で実施し、一般は市民から 2,000 人を抽出するので、市内の大学に通う大学生が抽出される確率はかなり低く、実質的にはほとんど重ならないと思う。可能性は低いがありえるということである。
山中副会長	木曾委員の質問に戻るが、セクシュアルハラスメント等の設問にある「回答せずに次の設問まで進んでください」は、よくあるアンケートのように「飛ばしていただいて結構です」という言い方でよいのではないか。
高橋委員	大学生調査は答えたくない設問には回答しなくてよい、という記載が入っていないので、入れる必要がある。この設問に限らず、他の設問についても同様の記載が必要である。
長町会長	システム上、必須項目でなくても飛ばせないということか。
事務局	飛ばしても問題ない。市民意識調査では最初に「飛ばして次の質問に答えてください」と書いてあるが、大学生調査では設問の中に書いてしまっているので、統一が必要である。他にも答えにくい質問はあると思うので、全体を整理する。一般のように、答えにくい質問は飛ばしてくださいという記載を全体にかけるかどうか検討する。
畑委員	一般向けの調査票では、アンコンシャス・バイアスなど男女共同参画分野の独特な用語がそのまま出てくる。大学生向けは設問の下に用語解説があるが、一般向けは「知らない」と答えた人がそのまま次の設問に進み、用語解説は属性等を回答した後の最後に出てくる。デート DV や LGBTQ など、社会でどれくらい一般化しているか分からない。設問中に説明を入れると読みにくいので、例えば「後ろの用語解説をご覧ください」とするなど、意味を知ってから次の質問に進めるようにした方が親切だと思う。
高橋委員	大学生向けの p. 6 にローズWAMを知っているかという設問がある。一般

議 事 の 経 過	
発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	用 p.14 と中学生用には続けて「何に利用したか」の設問があるが、大学生向けにはない。ページが抜けているだけか。
事務局	「何に利用したか」の設問は、前回調査時から大学生用には設定していなかった。大学生は市外居住者が多いということから、設定していなかったが、状況把握のため、他の調査票と同様に設問を追加する。
高橋委員	一般・大学生向けに、相談経験がある方に相談先を聞く設問がある。3番から7番の選択肢が細かく分かれているが、相談した人はどこに相談したか明確に覚えているものか。行政関連、地域関連のようにまとめた方が答えやすいのではないか。市民目線では、自分が相談したところがどこだったか分かりづらいのではないかと思った。
木曾委員	相談した方は、どこに相談したか理解されていると思う。分かれている方が、どういう理由でどこに相談したかが分かりやすい。サポートしている身としては、アンケートとしては分かれている方がよいと思う。
藤里委員	自由記載にすると正確に覚えておらず、正式名称が書かれにくい。
長町会長	一般・大学生用はここまでとし、次に中学生・小学生の調査票の内容に移る。中学生・小学生の調査票について意見を求める。
橋本委員	小学生も紙ではなくタブレットで回答するのか。文字が全体的に小さい。
事務局	どちらもタブレットでご回答いただく。文字はタブレット側で拡大・縮小できる。
高橋委員	中学生用 p.9、小学生用 p.6 の「誰に相談しますか」の設問について。自身の仕事の現場感として、人に相談せず AI に相談するケースが増えているので、選択肢として追加するのはどうか。「ネットでの友達」は実際多く存在しているので、選択肢としてあるのは良い。今、「ネットでの友達」から AI に変わろうとしており、結構出てきているワードなので、把握しておくといいのではないか。
木曾委員	AI もそうであるが、ネットでの匿名もある。
長町会長	オープンチャットなどは「ネットでの友達」に入るか。

議 事 の 経 過	
発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
木曾委員	入らない。ネットの知らない人のようなものだと思う。インターネットでつながっている友達的な関係と、その時だけの関係は違う。
長町会長	「ネットでの友達」と「ネットでの知人」を分け、さらに AI を入れるということか。
事務局	「ネットでの友達」と「ネットでの知人」については、一度整理することとし、AI は選択肢として追加する方向で良いと考える。
長町会長	AI は事件の要因にもなっており、社会現象として広がっている。複数回答なので、AI を選ぶ子が意外と多いかもしれない。
高橋委員	迷っている子が選択肢を見て、AI に相談すればよいと思うようになるデメリットもある。
木曾委員	「誰に」と聞かれて、自分は AI を思いつかなかった。「誰に」「どこに」のような聞き方にできないか。
長町会長	選択肢 9 の「他に相談する人がいれば教えてください」を「相談する先」のように工夫し、AI と自分で書けるようにする方法もある。ただ、AI が選択肢にあると簡単に丸をつけてしまいそうである。
事務局	実態としてそういう状況があるかを把握する意味は、今のタイミングにあるのかもしれない。この調査は毎年実施するものではないので、今回 1 回聞いておき、5 年後、10 年後、15 年後に追いかける意味で、AI の項目はあってもよいと思う。
高橋委員	精神的な自律性が問われる部分である。大学生と接する中で、AI というワードは頻繁にでてくるので、小中学生も同じようにあると思うと、数値として把握することは良いとは思う。
樫本委員	悩み事や心配事の本当の相談と、単に分からないことを聞く場合とが混同しないか。中学生は悩み事を AI に相談すると思うが、小学 5 年生が悩みの相談と AI をすぐ結び付けるかは分からない。小学生の方は慎重に文言を考えてほしい。
田井委員	小学生用の調査票について、5 年生には難しい言葉があると思う。冒頭のジェンダー平等の説明にある「分かち合い」は分かりにくいので、

議 事 の 経 過	
発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	もう少し分かりやすい言葉がよい。 p. 4 問 5 の「男の子だから」「女の子だから」と言われたことがあるかを聞く設問と同様の投げかけをしたとき、「家族に言われたことはないが、テレビで見た」とつぶやいていた小学 4 年生がいた。テレビ等の情報で聞いたことがあるか、という項目があってもよい。 p. 3 などの「その他に良いと思うことがあれば教えてください」では、5 年生は何を書けばよいか分からないと思う。「子育ての方法について、あなたがもし良いと思うことがあれば教えてください」のように、具体的な言葉を入れた方がよい。 p. 6 の「誰に相談しますか」は、「誰に」だけでなく相談機関もある。茨木市の小学 3・4 年生には、電話、チャット、手紙などの相談方法を全員に伝えている。「どのようなところに」という聞き方もあった方がよい。
檜本委員	5 年生でも、4 月と 3 月では発達段階に幅がある。教室で一斉にタブレットで行うのであれば、読み取る力に差があるので、先生が設問を読み上げるだけでも答えやすくなる。注釈を入れると文言が多くなり、読むのが嫌になる。学校に協力してもらい、先生が読み上げる形がよいと思う。中学 3 年生でも同様かもしれない。
藤里委員	田井委員の意見に関連して、自由記載欄に ChatGPT が上がってこないかと思う。自由記載欄は残した方がよい。書けない子は書かないだろうし、書きたい子はたくさん書くと思う。人や場所をもっと細かく選択肢にした方がよいという意見もあったが、小学生でも自由記載は書けると思うので、幅広にしておいた方がよい。
長町会長	「他に相談する人」となっているのを「相談する先」とし、ChatGPT がある程度引っかかってくるような設問にすればよいのではないか。
中野委員	中学生の問 7－1 の選択肢 8「テレビ番組」について。テレビ番組を見ず、YouTube 等インターネットで情報を得ている子が増えている。中学生は特にそうなので、テレビ番組の方が「その他」でよいのではないか。両方入れてもよいが、ネット上で言われたりすることの方が多いと思う。
事務局	選択肢について検討する。
高橋委員	時代とともに変わっている用語や価値観を、一度見直してもよい。大学生調査の「宴会の席でお酌やデュエットを強要される」や、デート DV の「ポルノビデオ」という表現は古いのではないか。

議 事 の 経 過	
発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
木曾委員	中学生の間 12 の相談先について、ネットの知らない人や、YouTuber などインフルエンサーに聞く、著名人に直接送るといったこともありそうなので、入れた方がよいか。AI は使い方によって変わるが、よいアドバイスをすることもあるので、AI はあってもよいと思う。
長町会長	学校では AI の使い方をどう指導しているのか。本学では今年度から、AI を授業でどう使うかの方針を授業の最初に伝えることになっており、次年度からはシラバスに記載する。ただ、AI の使い方を教えるところまでは大学もできているとは言えない。
事務局	ネットリテラシーの部分については、教えていると聞いているが、AI の使い方までは指導していないと思う。
木曾委員	最近、発達グレーゾーンの子などから、「AI に聞いたらこう言われた」ということで被害感情が増幅されているケースの相談が増えている。AI を選択肢に入れることには賛成である。相談先のバリエーションは、今の選択肢では足りないほど増えていると思う。
事務局	今回の調査は、相談がどこに流れているかを掴む意味で、AI を選択肢として入れておくべきと考える。結果への対応は次のステップで考える。他にも多くの相談先があると思うので、類型化は事務局で検討する。
榎本委員	あまり多く書く必要はなく、AI を一つ入れる程度にし、あとは「他に相談した場所があれば教えてください」で人やモノなどを書けるようにすればよい。書きすぎると子どもたちがそちらに流れてしまうと思う。
木曾委員	AI は相談窓口を案内してくれる。しかし、実際に相談先に電話してみると、AI が案内したような対応はしてもらえず、AI の情報と相談窓口の情報がずれていることがあった。また、基本的に肯定する方向に動く。
榎本委員	AI はいつでも使え、小学生にも一般化している。相談機関に行くより楽で、順番も待たなくてよい。今後、相談との兼ね合いが出てくると思う。
長町会長	プロンプトの入れ方によって答えが変わり、最初の設定を間違えると悪循環になると研究者の間でも言われている。
榎本委員	市民が市の相談に来る前に AI に相談し、比べることもありうる。公共の相

議 事 の 経 過	
発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	談窓口としてどうするかが気になる。相談窓口でも、自分の求める答えが出るまであちこち回る人がいるが、そこに AI が加わってきている。
藤里委員	自分で法律相談を ChatGPT にしてみたら、大嘘をつかれた。間違うことを前提にヒントとして使い、自分で検証するならありだと思う。検証するかどうかのスタンスの違いである。「AI がこう言っているから」という前提で来る人は多い。
樫本委員	このアンケート結果をきちんと考察してオープンにし、事実を出すことはとても大切だと改めて思った。
事務局	小学生ではそれほどでもなく、中学生になると AI が増える、といったことを調べるためにも、今回は選択肢としてあってもよいと思う。
山中副会長	調査結果を、分かりやすい言葉で回答者に返すことはしないのか。協力した人たちが結果を知ることにも意味があるとすれば、必要ではないか。答えた本人が結果にアクセスできるのか。
事務局	結果は公表するが、回答者は特定できないので広く公表する形になる。小中学生については学校に協力いただいているので、まとまった時点で学校に結果を伝える予定である。また、報告書は、市のホームページ等で公開するので、回答者に読んでいただくことは可能である。
高橋委員	通常の報告書では5年生には分からないと思うので、やさしい言葉に変えたものを公開すると分かりやすい。
事務局	どこまで形を変えて伝えられるか検討する。結果の共有は大事なことで、それぞれに伝わる形を事務局で検討する。
長町会長	概要版のような分かりやすいものがあれば、教材として意識調査の結果をフィードバックできることにもなる。
木曾委員	小学生用で、全部に括弧書きで読み仮名がついているのはそのままか。
事務局	多くの自治体が導入しているアンケート作成ができるシステムを利用したものであり、現状、表示を変更することはできない。p.1 は画像として表示しているのでこの形になっているが、他の部分はいできない。

議 事 の 経 過	
発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
長町会長	漢字で書いた後に括弧で全部ひらがなを書くなどすれば、見にくさは少し軽減されるかもしれない。
山中副会長	一般の資料 1、p.8 問 17 の DV の相談先に AI が入っていない。大人なので「その他」に具体的に書いていただけるかとも思うが、念のため。女性相談窓口の担当者によると、今年や去年あたりから「AI に聞いて」という相談がそれなりにあるとのことである。
長町会長	中学生や大学生に入れるのであれば、一般にも入れてみてもよいのではないか。年齢によって差が出て、どこが AI を使うかの境界も分かるかもしれない。統一して全部に AI を入れる方法もある。
長町会長	中学生・小学生用はここまでとし、次に事業所調査の内容に移る事業所調査について意見を求める。
中野委員	人数や時間などを書く設問があり、回答に手間がかかると思う。育休を取得期間など、前回審議会での意見を反映しているので、仕方ないと思う。男女でどれくらい違うのかなどはデータとして必要だと思う。
事務局	男性の取得状況が変わってきているので、取ってみる必要があると感じている。
長町会長	いただいた意見は事務局で検討いただく。反映できるもの・できないものがあるかもしれないが、この後は会長・副会長に一任いただきたい。
	案件（２）「男女共同参画に係るヒアリング」について 事務局からの説明を求める。 【事務局説明】
長町会長	意見等あれば自由に発言願いたい。
木曾委員	ヒアリングの対象や内容はよいと思う。ただ、前回どこを対象にどのように実施し、どういう結果だったのか、それを踏まえて今回どうするのかというプロセスが見えないので、この対象でよいか判断しにくい。
事務局	基本的な項目は大きく変わっていないが、内容をより深めている。仕事と

議 事 の 経 過	
発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	育児・介護の両立では、5年前は市の男性職員にヒアリングを実施したが、現在は取得が進んできているので、市職員ではなく、ローズWAMの講座に参加している方を対象にヒアリングを実施したいと考える。 困難な問題を抱える女性の支援では、一団体ずつのヒアリングではなく、座談会形式で実施することで、困難な問題を抱える女性の複合的な問題をとらえることができるのではないかと考えている。
木曾委員	事業所調査でヒアリングに協力可能と回答した事業所を対象とすることには賛成である。ローズWAMの講座参加者は一定偏るので、もう1つ2つ対象の選択肢があってもよい。
中野委員	ハローワークの協力を得て、育休の取得が多い事業所などを調べられないか。
木曾委員	協力可能と回答した事業所だと、協力的で理解のある人からしか聞けない気がする。
檜本委員	おにクルのイベントには多くの親子が参加しており、子育て中で仕事をしておらず、昼間に来ている方も多い。一般的な実感を取ってほしい。
長町会長	茨木市の子育て情報のメール配信などで協力者を募る、おにクルに来ている人に声をかける、といった方法もある。個人は特定しない形であれば、関心のある人もいるかもしれない。
中野委員	図書館に来ている人など、関心のない人も捉えられるかもしれない。おにクルに張り出してみるなど方法もあるのではないかと。
木曾委員	意識の低い人も対象にしたい。2階に図書館や乳幼児検診もあるので、待ち時間にヒアリングするなど、工夫する余地がある。この対象だけでは、本当に取りたいデータが取れない気がする。
事務局	子育て部門との連携や、イベント来場者を対象にすることも考えられる。実施時期は11月から1月ぐらいまで幅を持たせているので、その中でできるだけ幅広く取れるよう検討する。
藤里委員	二次元コードを貼っておき、帰ってからゆっくり答えられるようにするのもありかもしれない。

議 事 の 経 過	
発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	子育て支援課主催のイベントや、市民活動センターのこども向けイベントなどでは、数が取れる配り方ができると思う。二次元コードをチラシやパンフレットに混ぜるなども含め、検討する。
木曾委員	おにクル中心だと、中心市街地や電車でアクセスしやすい人の意見に寄りすぎる可能性がある。離れたエリアにも課題があると思うので、そちらもうまく取れるとよい。また、不登校は全国平均の倍以上のペースで伸びている。教育分野と連携できるのであれば、学校に行きにくいこどもがいる世帯に困りごとを聞いてみてもよい。余談だが、大きな商業施設や物流センターがある街は共働きが増え、不登校が増える傾向があるという話を聞いた。
事務局	女性の活躍と不登校が比例・反比例のような関係になる可能性や、出生率の話など、一概に片付けにくい問題なので、丁寧にやる必要がある。
木曾委員	ヒアリングで情報を取っておくと、5年後に向けて役立つかもしれない。介護についても、聞く場所はローズWAMやおにクルではないと思うので、どこで誰に聞くかももう少し練ってもよい。
長町会長	市内には多世代交流センター等が分布しているので、そういうところで一定数ヒアリングする方法もある。ヒアリングだけで一般論を述べるのは難しいが、大量の意識調査をしたうえで、属性に当てはまる人の特徴の理解に使うようにする必要がある。
橋本委員	共働きが増え、フルタイムで働く母親がこどもを受診させられず、薬が切れていると分かっているにもかかわらず来られないケースがある。母親が管理職になれば、ますます早く帰れなくなる。家政婦など家のことをする人が別にいる社会を目指しているのか。父親が育休を取っても、小学生以降の家庭の問題があり、放っておかれて不登校になる子もいるだろう。
長町会長	男女共同参画は次のステージに来ている。女性の就業率はこの10年で大きく上がったが、家事・育児の分担はほとんど変わっておらず、働く女性に負担がかかっている。育休の後も、父親が継続してどこまで参加できるかが重要なので、ヒアリングで拾い上げてほしい。制度は整ったので、アンコンシャス・バイアスも含め、家庭内の男女共同参画をどう運用し実現していくかが課題であり、そこに意識調査を使っていくのだと思う。
樫本委員	前回も、夏休みの昼間のこどもたちの過ごし方を茨木市でも考えないと男

議 事 の 経 過	
発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	女共同参画は進まない、と話した。こどもたちへのサポートなど、市としてできることを提案していきたい。店舗に、こども一人の家庭には配達するという張り紙がしてあるのを見た。コミュニティセンターには介護をしている方も昼間に講座を受けに来ており、こども支援のイベントも行っているので、ヒアリングの場にしてほしい。
木曾委員	認定こども園の隣に小児科を設け、迎えに来なくても預かる仕組みを作った自治体もある。家政婦を雇うように外注するのではなく、こどもの居場所や話せる先など、家の中で完結していたものを少しずつ外に出していく仕組みを作ることが、男女共同参画にもこどもの安全にもつながると思う。困っているのに見えていない課題が多いので、実態が見えるヒアリングをしてほしい。
長町会長	2番の仕事と育児・介護の両立支援では、どんなサービスがあったらよいかを具体的に聞いてほしい。例えば、こどもの居場所、家事支援については、福井県などでは家事代行サービスに使えるチケットの配布を行っているそうだ。
山中副会長	長町会長と同意見である。介護はすでに外からのシステムが入っているのに、なぜ子育てには外から何かが入ってはいけないのか。家庭内でバランスを取っても無理な場合に何ができるのか、社会が育てるという観点で、何があったらよいかを聞けたらよい。
事務局	5年前、10年前は保育所の問題だったが、今はそれより上の年代のこどもの居場所の問題になっている。学校の夏休みのプールもなくなるなど、学校の受け皿も変わりつつあり、こどもの居場所は全庁的な話として出てきている。コミュニセンター、公民館、多世代交流センターなどに居場所としての機能を持たせられないか、考え始めているところである。男女共同参画の次のステップとして、何を社会として受け止め、何を個人の話とするか、この場で議論を続けていただきたい。そのための材料として、アンケート・ヒアリングはいただいた意見を踏まえ、深掘りできる資料を揃えたい。
田井委員	ヒアリングは実態を知ることが目的だと思うが、こどもたちの思いや声はどうやって聞くのか。また、学校現場の先生たちも悩みながら働いている。ヒアリング対象に学校の先生が入ることはありえないか。
木曾委員	やってよいのであれば、こどもたちを集めて話を聞くこともできると思う。

議 事 の 経 過	
発言者	議 題（案 件） ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
藤里委員	木曾委員から、おにクル中心だと中心部の人の意見に偏るという話があった。充実している市の広報誌で募集する方法は取れるか。広報誌は各世帯に配布されるので、おにクルに行かない人にも行き渡る。
橋本委員	おにクルに遊びに行く人は近くの人かもしれないが、2階の乳幼児健診は市内全域が対象なので偏らない。
山中副会長	困難な問題を抱える女性の支援の座談会は、対象がすべて支援者になっている。難しいことだと思うが、当事者に聞くことはいかがかと思った。
	案件（３）その他
長町会長	事務局からその他の報告はあるか。
事務局	次回の審議会は、12月21日（月）午後2時から開催予定である。本日の会議録は作成次第送付するので、確認をお願いしたい。
長町会長	その他、何かあるか。特になければ、これをもって第2回茨木市男女共同参画推進審議会を閉会とする。
	<閉会>
	以上